

説 教 「しゅろの聖日礼拝」

礼拝 北浜チャーチ
黒田 禎一郎

2024年3月24日（日）

主 題：「ホサナ。祝福あれ！」
ーエルサレム入城ー

テキスト：ヨハネ12章12～19節

はじめに

おはようございます

- ・今週は、イエス・キリストの受難週が始まります。金曜日は、イエス・キリストが十字架にかかられた受難を記念する日です。北浜チャーチでは、夕方に「受難日礼拝」を持ちます。そして来週は、キリストの復活を記念する復活祭（イースター）です。したがって、私たちにとってこの1週間は大変重要であります。
- ・さて、今日は、「しゅろの日曜日」(Palm Sunday)と呼ばれる聖日です。この日、イエス・キリストは「ろば」に乗り、エルサレムの都に入城されました。聖書は次のように記録しています。

12:12 その翌日、祭りに来ていた大ぜいの人の群れは、イエスがエルサレムに来ようとしておられると聞いて、

12:13 しゅろの木の枝を取って、出迎えのために出て行った。そして大声で叫んだ。「ホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。イスラエルの王に。」
- ・人々は大声で、「ホサナ。」と叫び、イエスを迎えました。ホサナとはヘブル語で「今、私たちをお救いください」(save us now) という意味です。人々は手に「しゅろの木の枝」をもって、イエスを迎えるために出て行きました。それが「しゅろの日曜日」と呼ばれる今日です。
- ・では、このエルサレム入城はいったい何を意味するのでしょうか？なぜ、イエスはエルサレムに入城されたのでしょうか？なぜ、民衆はイエスを大歓迎したのでしょうか？私はその「なぜ」について、次の3点から考えてみたいと思います。

大切なポイント

1. なぜ、イエスはエルサレムに入城されたか？

1) ニサンの月の10日

- ・イエスがエルサレムに入城された日は、ユダヤ暦でニサンの月10日でした。そこには深い意味がありました。それは、「ユダヤ三大祭り」のひとつ「過越しの祭り」と重なることです。ニサンの月の10日は、エルサレム神殿で「過越しの祭り」で屠られる「羊」が選り分けられる日でした。

そして、14日まで傷やシミが無いかどうか、吟味されることとなっていました。

- 出エジプト12章には次のように書かれています。
 - 12:5 あなたがたの羊は傷のない一歳の雄でなければならない。それを子羊かやぎのうちから取らなければならない。
 - 12:6 あなたがたはこの月の十四日までそれをよく見守る。そしてイスラエルの民の全集会は集まって、夕暮れにそれをほふり、
 - 12:7 その血を取り、羊を食べる家々の二本の門柱と、かもいに、それをつける。
- イエスがニサンの月10日に入城されたことは
⇒イエスが「過越しの羊」として、選び分けられたことを意味します。

2) 過越しの小羊イエス・キリスト

- ユダヤ人たちは、「過越しの祭り」を記念するたびに、羊を屠っていました。しかも、その羊は1歳で雄でなければならない、という条件がありました。⇒イエス・キリストは真の「過越しの祭り」で屠られる小羊
- もっとも偉大で、最後の預言者と言われるバプテスマのヨハネは、イエスを指して言いました。 ヨハネ福音書
 - 1:29 ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」
- パウロは言いました。 1コリント人への手紙
 - 5:7 私たちの過越しの小羊キリストが、すでにほふられたからです。
ですから、イエスはこの「過越しの祭り」にエルサレムに入らなければなりませんでした。すなわち、屠られるべき「イエスの時」（十字架の受難）が来たのでした。イエスは当時の社会的指導者によって、何度も捕らえられそうになった。しかし、捕らえられませんでした。聖書はこう言っています。 ヨハネ福音書
 - 7:30 そこで人々はイエスを捕えようとしたが、しかし、だれもイエスに手をかけた者はなかった。イエスの時が、まだ来ていなかったからである。
- 愛する皆さん。「イエスの時」が来ました
⇒それがエルサレム入城であり、受難週の始まりです。

2. なぜ、イエスはロバの子に乗り入城されたか？

1) ろばの子に乗るお方

12:15 「恐れるな。シオンの娘。見よ。あなたの王が来られる。ろばの子に乗って。」

- この歓喜の言葉は、旧約聖書ゼカリヤ書9章の言葉です。
 - 9:9 シオンの娘よ。大いに喜べ。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。見よ。あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜わり、柔和で、ろばに乗られる。それも、雌ろばの子の子ろばに。

- ・メシヤ来臨の「しるし」は、「ろばの子」に乗って来ることでした。「ろば」は荷物運搬用の家畜で、とくに農作業に用いられました。馬は騎動性が高いが、ろばは低い家畜でした。くびきを負わせて作業をさせられました。決して高貴な人が乗る動物ではありません。
⇒平和の君であるイエスにふさわしい
- ・「**恐れるな。シオンの娘。見よ。あなたの王が来られる。**」12:15
⇒ なんとという幸いな励ましの言葉ではないでしょうか。当時の王は、今でいう独裁者に近いものでした。例えば、ヘロデ大王は、幼子イエスが誕生したと耳にした時、2歳以下の男児を皆殺しにせよと命じました。人間はある時、恐ろしく豹変します。
- ・ですから当時の人々は、王に対しては非常な恐れがありました。しかし、平和の君である王イエスは違います。神は「**シオンの娘よ。大いに喜び。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。**」と言われました。シオンとはエルサレムにある丘のことで、両者は同じことを意味します。Good News!(良き知らせ) ⇒それがキリストの福音です。
- ・預言者イザヤはこう歌いました。
40:9 **シオンに良い知らせを伝える者よ。高い山に登れ。エルサレムに良い知らせを伝える者よ。力の限り声をあげよ。声をあげよ。恐れるな。**
- ・イスラエルの王は白馬に乗って現れたのではなく、ろばの子に乗って現れるというのが聖書預言でした。それが「しるし」でした。

2) 王である「しるし」

- ・皆さん。イエスは、ラザロを死人の中からよみがえらせたお方です。ヨハネ12章は、次のように記録している。
12:17 **イエスがラザロを墓から呼び出し、死人の中からよみがえらせたときにイエスといっしょにいた大ぜいの人々は、そのことのあかしをした。**
12:18 **そのために群衆もイエスを出迎えた。イエスがこれらのしるしを行なわれたことを聞いたからである。**
 - ・ユダヤ人たちは「しるし」を求めました。マルコ福音書
8:11 **パリサイ人たちがやって来て、イエスに議論をしかけ、天からのしるしを求めた。イエスをためそうとしたのである。**
 - ・イエスは、ヨハネ福音書10章でこう言われた。
10:38 **しかし、もし行なっているなら、たといわたしの言うことが信じられなくても、わざを信用しなさい。それは、父がわたしにおられ、わたしが父に在ることを、あなたがたが悟り、また知るためです。」**
- 「しるし」が確かであるか否かは、その人の「わざ」を確認することです。
- ・イエスが、エルサレム入城された時、ゼカリヤ預言のように、確かに「ろばの子」に乗って来られました。世界の救い主は、王宮から現れたのではありませんでした。ガリラヤのナザレ出身であった。ナザレから、「なんのよいものが出るだろうか」と言われた地からです。それは

神が成された「しるし」(semeion)でした。それにより、全世界の人が神の祝福に与るためです。
 なんとという感謝ではありませんか。

- このように、イスラエルの王であるお方は、正しいお方(正義)で、救いを与えるために来られ、柔和(謙遜)であり、しかもそのお方の「しるし」は⇒「**ろばに乗って来られる。**」でした。
- ・ですから、イエスが「ろばの子」に乗ってエルサレムの都へ入城されたことは、重要なことでした。

3. なぜ、イエスは「しゅろの枝」をもって迎えられたか?

- ・群衆は「しゅろの木の枝」を取って、イエスを出迎えた。イスラエル「しゅろの木」は多くあります。現在も各地で「しゅろの木」は見られます。(Foto)

1) 「しゅろの木の枝」

- ・「**棕櫚(しゅろ)**」：フィオニクス(ギリシャ語)⇒「なつめやし」
 - ・葉の形が鳥の羽状を成している。
 - ・多くの果実を実らせ、乾燥させて保存食として多く用いられる
 - ・棕櫚の葉は、輪を作るなどして祝いごとに用いられた。
- ・ある文献によれば、紀元前2世紀ごろから、イスラエルでは「しゅろの木の枝」を振る行為は、国家的な祝いごとの際に行われたとあります。イエスのエルサレム入城に際して、民衆が「しゅろの木の枝」をもって迎えたことは、⇒イスラエルの国を救ってくださる方は、このお方(イエス)であることを表しています。

2) 「仮庵の祭り」

- ・もうひとつ「しゅろの木の枝」が用いられたことには、大切な意味があります。それは「しゅろの木の枝」をもって迎えることは、「過越しの祭り」習慣ではなく、「仮庵の祭り」の習慣であったことです。「仮庵の祭り」もユダヤ三大祭りのひとつで、大きな祭りであります。
- ・「仮庵の祭り」は、チスリ(Tishri)の月(秋)の第15日に始まる祭りです。7日間つづき、最初と最後の日には聖なる会合が開かれます。これは、その年の収穫の終わりを告げる祭りです。そして又、イスラエルの民が荒野を放浪したことを記念する祭りでもあります。現在でも「仮庵の祭り」は行われています。人々は木の枝で作った仮小屋に住み祭りを記念します。(レビ記23:39-43、民数記29:12-38参照)
- ・民衆はイエスを迎えた時に、「ホサナ」と叫びました。しかしこれは、「仮庵の祭り」の時に唱える祈りの言葉です。

皆さん!

- ◎ 私たちは、「しゅろの日曜日」に何を学ぶことが出来るでしょうか
 ⇒「聖書の信ぴょう性」(確かさ)

- ・旧約聖書が語るメシアは、イエス・キリストです。
聖書：「花は枯れ、草はしぼむ。だが、私たちの神のことばは永遠に立つ。」（イザヤ40：8）
- ・聖書のみことばは、信じるに十分値するものです。「しゅろの日曜日」に、民衆はイエスを大歓迎し迎えました。
12:16 初め、弟子たちにはこれらのことがわからなかった。しかし、イエスが栄光を受けられてから、これらのことがイエスについて書かれたことであって、人々がそのとおりにイエスに対して行なったことを、彼らは思い出した
- ・彼らがそれを理解したのは、イエスの復活後、聖霊降臨（使徒2章）以降でした。
- ・ところで、人には、自分が見たいことしか、見ないという性質があります。聞きたいことしか聞かない性質、知りたいことしか耳をかさない性質があります。群衆の期待・・・、弟子たちの期待・・・。彼らの心は、どこにあったのでしょうか？ 地上の「王国」を求めたイスラエル人たちは、この同じ週にイエスを見捨て離れてしまいました。彼らはどこを見ていたのでしょうか・・・？
- ・皆さん。私たちは何を見ているのでしょうか。そして、私たちの心は今どこに向いているのでしょうか。「聖書の信ぴょう性」に信頼をおき、それを見ているのでしょうか・・・？
- ・今日、私たちは聖書の神にどんな応答をする者でしょうか？ イスラエルの民衆の応答⇒ 「ホザナ！祝福あれ！」
私たちは・・・？

ま と め

主 題：「ホサナ。祝福あれ！」
ーエルサレム入城ー

民衆は「ホサナ。祝福あれ。」と言って、イエスを大歓迎しました。「なぜ」、民衆はイエスを歓迎したのでしょうか。群衆は、きっと深い意味は考えてはいなかったでしょう。3つの歓迎がありました。

1. エルサレム入城の歓迎
 2. 「ろばの子」に乗っての歓迎
 3. 「しゅろの木の枝」をもつての歓迎
- ・イエスのエルサレムの都への入城は、これら3つの歓迎がありました。
*God bless you!